

学校教育目標	○よく考える子(知) ○心ゆたかな子(情) ○元気な子(意)(体)	【目指す学校像】	○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校 ○「チーム」一丸で教育活動を推進する学校
		【目指す児童・生徒像】	○自らの人生(運命)を自らの力で切り拓き、これからの社会の創造を担える児童～グローバルに考え、ローカルに実践する子～
		【目指す教師像】	○「チーム拝二」の一員として、自らすすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師 ○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団

領域	中期経営目標(3年間)	短期経営目標(1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策									
確かな学力	(知) 自ら学び考え判断し、協働して問題を解決することができる児童の育成	「拝二小授業力スタンダード ver.2」をもとに、児童が自身の学びの成果を実感できるように指導する。	日々の授業を充実させ、学力調査のCD層の引き下げを図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 3%のA層の増加とD層の減少 3 2%のA層の増加とD層の減少 2 1%のA層の増加とD層の減少 1 0%以下のA層の増加とD層の減少	4	「授業力スタンダード20ver2」を意識した授業に取り組むとともに、年間6回の授業観察によって教師の授業力・児童の学力の向上が見られた。	授業参観の様子から、児童の教師への信頼感を実感する。それを支えとして、より一層の授業改善に取り組むとよい。	4	・朝学習の時間を20分以上で週4日程度確保し、児童の学習課題に対応した内容を年間を通じて取り組む。 ・「授業力スタンダード20ver2」の改善を進めて教職員に周知し、組織的に授業改善を図っていく。									
			言葉の力で獲得した知識を生かして自分の思いを論理的に表現できる児童を育成する。	指導計画を活用し、児童が考えを深め、表現する場を意図的に計画的に設定する。		4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。						4	4 「思考・判断・表現」の評価B以上70%以上 3 「思考・判断・表現」の評価B以上60%以上 2 「思考・判断・表現」の評価B以上50%以上 1 「思考・判断・表現」の評価B以上50%未満	4	本校では先行して新学習指導要領に対応した評価の在り方とそれに伴う授業改善を昨年度から継続してきたことにより、結果は高い。しかし、自分の思いを豊かに表現することに課題が見られることから、表現できる語彙量の不足が考えられる。	これまで長年本校に関わってきたが、最近ではこれまでも増して児童の積極性、表現力の向上を実感する。	4	・朝学習の時間における文章表現の時間を継続するとともに、接続語を児童に意識させる授業展開を徹底し、自分の考えを論理的に表現することができる児童を一層増やしていく。 ・さらに豊かな表現力を育成するために、語彙量を増やすことが必要であることから読書の時間を確保する。		
			学んだことを日常生活に生かしたり、自分の周りの社会に役立てたりしようとする児童を育成する。	昭島市民科、各教科、特別活動、特別な教科道徳全体を通じて児童がセルフモニタリング・コントロールする場を設定する。		4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。						4	4 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童70%以上 3 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童60%以上 2 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%以上 1 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%未満	4	新学習指導要領における「学びに向かう力」の育成を、自作テストを作成し活用することで向上させようとしてきた。しかし、児童対象アンケートの結果から、学んだことを日常生活に生かす切れない児童が多数いることが分かった。	社会とのつながりを認識させ、学習に臨ませる取組として、本校の取組は有効に働いている。	4	・自作テストを作成し、児童の「学びに向かう力」を見取ることは今後継続していく。 ・学習の「見直し」と「振り返り」の時間を大切にし、児童のメタ認知力の向上を図ることで、より深く、実際の生活に即した学習ができるように授業を改善していく。		
		(情) 自らの心を見つめ、自己を尊重し、共によりよく生きようとする児童の育成	すべての児童が安心して登校できる学校にする。	児童・保護者の声や思いを十分にくみとれるように教員の感受性を高める。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 いじめ・暴力の未解決0件 3 いじめ・暴力の未解決1件 2 いじめ・暴力の未解決2件 1 いじめ・暴力の未解決3件	4	新型コロナウイルス感染症拡大による長期休業の影響から、児童の自己肯定感の低下が顕著となった。しかし、社会通念上のいじめや未解決の暴力事案はない。	コロナ禍という特別な環境下にあるが、学校は児童相互の親和的な関係の維持を継続できている。	4	・週番の機能を充実させ、休み時間などにおけるトラブルの早期発見解決を図る。 ・構成的グループエンカウンターを学期始めと必要に応じて時に実施することで、児童相互の親和的な関係構築を引き続き目指す。								
			学校生活を自ら創り上げる児童を育成する。	「拝二小学級スタンダード」をもとに、児童自らが学校生活を築けるようにする。児童会選挙を実施する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。		4						4 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童70%以上 3 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上 2 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上 1 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満	4	学校行事では児童が主体となった実行委員が運営してきた。また、学級力スタンダードの結果を基に、学級の実態を把握し、学級会を通して話し合いを経て改善することができた。	実行委員会による取組は、功を奏している。その成果を各学級で振り返らせた。	4	・児童会選挙を実施し、更なる児童自身による自治的活動の推進を図る。 ・SDGsを踏まえた昭島市民科(総合的な学習の時間)を中心に、よりよい社会の構築に寄与しようとする人材育成の基礎を培っていく。そのためにカリキュラム・マネジメントを行う。		
			学校の決まりを守る風土を創り上げる。	学校のきまりを自発的に守るための取組を進める。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。		4						4 学校のきまりを守っていると実感する児童70%以上 3 学校のきまりを守っていると実感する児童60%以上 2 学校のきまりを守っていると実感する児童50%以上 1 学校のきまりを守っていると実感する児童50%未満	4	学級力スタンダードを実施し、児童一人一人や各学級が学級生活の改善を図ってきたことが良い結果につながっていると考えられる。	児童が「自分たちの学校を自分たちで作る」と意識し始めてきたことを実感する。	4	・「学級力スタンダード」を一層活用し、児童自身が自分たちの学級・学校をよりよくしていくようとする意識と行動力を高める。		
		健やかな体	(体) 自らすすんで心と体を鍛え、たくましく生きる児童の育成	拝二小版スタンダード体育編を共通実践し、体育科の授業充実を図る。	日々の授業の充実をもとに、体育の授業が好きな児童を増やす。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 運動が好きになったと実感できる児童70%以上 3 運動が好きになったと実感できる児童60%以上 2 運動が好きになったと実感できる児童50%以上 1 運動が好きになったと実感できる児童50%未満	4	コロナ禍でありながら、運動が好きな児童が多いことは評価できる。体育的活動部を中心とした、毎朝のラジオ体操や体力向上の取組が功を奏したと考えられる。	ラジオ体操の取組を続けていること、そして児童が参加し続けていることは、大きな成果である。特別なことを行うだけでなく、こうした活動を定着させていくことも大切である。	4	・ベテラン教員や専門教員によるOJTの実施がでる環境を整備する。 ・毎回の体力テストの結果分析に基づいた改善策を講じていく。 ・「拝二小版スタンダード体育編」を見直して共通実践し、体育科の授業の充実を図る。							
					体力調査の結果に基づく課題分析・解決策の共通理解と共通実践をする。	児童の課題に応じた様々な運動に親しませる場を設定し、運動能力の向上を図る。		4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。						4	4 Tスコアを都平均以上にする。 3 Tスコアを都平均にする。 2 Tスコアを都平均より-1%にとどめる。 1 Tスコアを都平均より-2%にとどめる。	4	同上	コロナ禍という体力向上の障壁となる時期において、生活習慣の確立はすぐにはできない取組として大切なことであろう。	4	・元気アップカードを有効活用したグッドモーニング60分の取組によって、児童の生活習慣から改善を試みていく。
					家庭と連携して、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。	「グッドモーニング60分」を計画的に活用し、児童自身が生活改善の大切さを意識し実感できるようにする。		4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。						3	4 生活改善を実感する児童70%以上 3 生活改善を実感する児童60%以上 2 生活改善を実感する児童50%以上 1 生活改善を実感する児童50%未満	4	生活習慣の改善を実感する児童は多かった。一方、多くの教職員は児童の生活改善が一層必要であると考えていることが分かる。	生活習慣の改善が図りにくいコロナ禍という環境の中で、教職員が一丸となって指導にあたっていくことが求められている。	4	・教職員が元気アップカードの意図や内容を正しく理解し、着実に活用していく。 ・体育主任が中心となって活用のためのOJTの実施をする。
(意) 自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げることができる児童の育成	昭島市民科や各教科等の充実を図り、地域を担う市民としての愛着を育てる。			地域に根差した昭島市民科や各教科等の授業を展開することで地域に愛着をもつ児童を育成する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 地域に愛着をもつ児童70%以上 3 地域に愛着をもつ児童60%以上 2 地域に愛着をもつ児童50%以上 1 地域に愛着をもつ児童50%未満	4	コロナ禍の影響で多くの地域行事が中止となっているが、児童の地域に対する愛着は強いことが分かる。	児童が地域に対する愛着をもっている以上、地域に貢献する取組は工夫して生み出していけるだろう。	4	・SDGsの視点から昭島市民科の指導計画の見直しをすることで、より一層、地域に愛着をもち、地域のために活躍していこうとする人材を育成していく。 ・SDGsの理念を児童に定着させていく必要があるため、指導計画に位置付けていく。								
				地域人材を活用し、人とのかわりの中で学ぶ機会を充実させる。	地域人材を活用した体験活動を実施し、社会貢献しようとする児童を育成する。		4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。						3	4 社会貢献しようとする児童70%以上 3 社会貢献しようとする児童60%以上 2 社会貢献しようとする児童50%以上 1 社会貢献しようとする児童50%未満	4	・コロナ禍の影響で外部講師による授業をほとんどできなかったことが、低い結果に直結している。 ・児童の社会に対して貢献しようとする意識は高い。	新型コロナウイルス感染症の終息後、児童の意識を原動力として、再構築していく。	3	・昭島市民科のカリキュラム及び年間指導計画に地域企業や人材を活用した内容を確実に位置付けていく。また、一つ一つの活動が単独で完結するものではなく、つながりのあるものとするためにもSDGsについて学ぶ機会を確保していく。	
				体験活動を充実させ、社会の多様な課題への関心・意欲を高める。	自らの将来の進路を意識できる学習を実施する。		4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。						4	4 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童80%以上 3 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童60%以上 2 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%以上 1 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%未満	4	今年度の児童アンケートの結果より、将来の夢や希望を多くの児童は抱えていることが分かった。学んだことを表現し合い、深め合っていくことが求められる。	児童には夢や希望をもたせつつ、現実も直視し、昭島市民としてのどのように力を尽くすかを考えさせていくことが重要である。	4	・昭島市民科はもとより、教育活動全般において、キャリア教育の充実を図り(SDGsを念頭に置きながら)、成果を発表する場を設ける。 ・地域の教育資源(栗田ウォーターガッシュ等)の有効活用を図る。コロナ禍が収束し次第、一層の連携を図り、有効活用する。	